

# 田辺市人権施策基本方針 改定版



田 辺 市

表紙の写真は、熊野古道中辺路ルート of 伏拝王子付近から熊野本宮大社方面の眺望です。

(撮影者：山下義朗 田辺市本宮町在住)

平安時代の女流歌人・和泉式部（いずみしきぶ）が、熊野詣に訪れた時、熊野本宮大社まであともう少しの時に、月のさはりとなり、参詣できないという嘆きを歌に託して、伏して拝みました。

**晴れやらぬ 身の浮雲のたなびきて 月のさはりとなるぞかなしき**

すると、その夜、熊野権現が夢の中に現れて、式部に歌を返しました。

**もろともに 塵にまじはる神なれば 月のさはりも何かくるしき**

この熊野権現のご返歌により、式部は参詣をすることができました。

熊野には、古来より、すべての人をあたたかく、おもてなしする心や寛容さがあり、このような「お話」は他にもたくさんあります。

また、身体の不自由な人が参詣に訪れたことを知った地元の人たちが、同行するなどの思いやりあふれる行いも語り継がれています。

熊野は昔も今も、「寛容の心」で人々をあたたかく迎えています。